言語聴覚学科　　シラバスの変更一覧

学年	ページ	開講科目
1年	6～7	2025年度 言語聴覚学科1年生 年間予定表
1年	44	臨床実習Ⅰ（見学実習）
2年	50～51	2025年度 言語聴覚学科2年生 年間予定表
2年	82	臨床実習Ⅱ（評価実習）
3年	88～89	2025年度 言語聴覚学科3年生 年間予定表
3年	92	神経心理学
3年	93	心理学系総論
3年	94	日本語文法学
3年	95	言語聴覚障害学総論
3年	96	言語聴覚障害学臨床応用
3年	98	聴覚障害学総論
3年	99	音と聴力
3年	100	臨床実習Ⅲ（総合実習前期）
3年	101	臨床実習Ⅳ（総合実習後期）
3年	102	生命科学の基礎
3年	103	口腔顔面の感覚・運動障害総論
3年	108	視覚言語論
3年	109	補綴・補装具論
3年	110～111	言語聴覚学特別講義Ⅰ
3年	112～113	言語聴覚学特別講義Ⅱ

2025年度　言語聴覚学科1年生　年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月					1		2		3	入学式	4	オリエンテーション	5	
	6		7	健康診断	8		9		10		11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21		22		23		24		25		26	
	27		28		29	昭和の日	30		1		2		3	憲法記念日
5月	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7		8		9		10	
	11		12		13		14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26		27		28		29		30		31	
6月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9		10		11		12		13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	29		30		1		2		3		4		5	
7月	6		7		8		9		10		11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21	海の日	22		23		24		25		26	
	27		28		29		30	定期試験	31	定期試験	1	定期試験	2	
8月	3		4	定期試験	5	定期試験	6	追試験	7	追試験	8		9	
	10		11	山の日	12		13		14		15		16	
	17		18		19		20		21		22		23	
	24		25		26		27	不合格者発表	28		29		30	
	31		1		2		3	再試験	4	再試験	5		6	
9月	8		8		9		10		11		12		13	
	15		15	敬老の日	16		17		18		19		20	
	22		22		23	秋分の日	24		25	臨床実習Ⅰ	26	臨床実習Ⅰ	27	
	29		29	臨床実習Ⅰ	30	臨床実習Ⅰ								

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度　言語聴覚学科1年生　年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月							1	臨床実習Ⅰ	2		3		4	
	5		6		7		8		9		10		11	
	12		13	スポーツの日	14		15		16		17		18	
	19		20		21		22		23		24		25	
	26		27		28		29		30		31		1	
11月	2		3	文化の日	4		5		6		7		8	
	9		10		11		12		13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23	勤労感謝の日	24	振替休日	25		26		27		28		29	
	30		1		2		3		4		5		6	
12月	7		8		9		10		11		12		13	
	14		15		16		17		18		19		20	
	21		22		23		24		25		26		27	
	28		29		30		31		1	元旦	2		3	
1月	4		5		6		7		8		9		10	
	11		12	成人の日	13		14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26		27		28		29		30		31	
2月	1		2		3	定期試験	4	定期試験	5	定期試験	6	定期試験	7	
	8		9	定期試験	10		11	建国記念日	12	追試験	13	追試験	14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23	天皇誕生日	24		25	不合格者発表	26		27		28	
3月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9		10	再試験	11	再試験	12		13		14	
	15		16		17	卒業式	18		19		20	春分の日	21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	29		30		31									

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	

科目ナンバリング
ST-2-CLT-01

科目名	臨床実習Ⅰ（見学実習）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 中川 大介 小松 有希 江畑 綾		評価の方法	実習先の評価： 知識・人物・適性	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		学内の評価： 準備・報告書等	50 %
						授業時間数	45 時間			
				授業形態	実習	授業回数	－ 回			

授業の概要	リハビリテーションの専門職につくための自覚を持つとともに、臨床の見学を通し、挨拶、時間の順守、態度を含めた社会人としての在り方、対象者の尊厳の理解、対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。 また、臨床現場における言語聴覚士の役割と位置づけ、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。実習後には実習報告書の作成と報告会を行って、実習を振り返るとともにそれぞれの体験を分かち合う。さらには個人面談において、臨床実習指導者からのフィードバックを行いながら自らの今後の課題と目標を明確にする。
到達目標	言語聴覚療法について具体的にイメージできる。社会人としての在り方を理解し、実行できる。言語聴覚士に求められる基本的資質を理解する。
学修者への期待等	言語聴覚士の臨床活動の見学を通して、自身の足りない点を含め、自らと向き合ってほしい。そのうえで、次年度の学修における努力目標を明確にできることを期待する。

授業計画

1．実習期間
1単位　　45時間
　実習時期　9月4週～10月1週の間で1週

２．実習の目的
学内においては、グループワークを通じて、医療従事者としてふさわしい礼節や態度などについて考え、自然にできるよう身に付ける。実習施設において実際の臨床を見学することで、言語聴覚療法に対する認識を高める。また、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。

３．実習の目標（ねらい）
1）リハビリテーションの専門職に就くための自覚を持つ。
2）他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。
3）対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。

４．実習計画
　オリエンテーション　実習前3時間　実習後2時間　計5時間
1）実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。
2）実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。
3）実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。
4）毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。
5）実習期間終了後、実習報告書を提出する。

教科書	適宜紹介する。
参考文献	適宜紹介する。
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

2025年度　言語聴覚学科2年生　年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月					1		2		3	入学式	4	オリエンテーション	5	
	6		7	健康診断	8		9		10		11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21		22		23		24		25		26	
	27		28		29	昭和の日	30		1		2		3	憲法記念日
5月	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7		8		9		10	
	11		12		13		14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26		27		28		29		30		31	
6月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9		10		11		12		13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	29		30		1		2		3		4		5	
7月	6		7		8		9		10		11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21	海の日	22		23		24		25		26	
	27		28	定期試験	29	定期試験	30	定期試験	31	定期試験	1	定期試験	2	
8月	3		4	追試験	5	追試験	6		7		8		9	
	10		11	山の日	12		13		14		15		16	
	17		18		19		20		21	不合格者発表	22		23	
	24		25		26		27		28	再試験	29	再試験	30	
	31		1		2		3		4		5		6	
9月	8		8		9		10		11		12		13	
	15		15	敬老の日	16		17		18		19		20	
	22		22		23	秋分の日	24		25		26		27	
	29		29		30									

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度　言語聴覚学科2年生　年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月							1		2		3		4	
	5		6		7		8		9		10		11	
	12		13	スポーツの日	14		15		16		17		18	
	19		20		21		22		23		24		25	
	26		27		28		29		30		31		1	
11月	2		3	文化の日	4		5		6		7		8	
	9		10		11		12		13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23	勤労感謝の日	24	振替休日	25		26		27		28		29	
	30		1		2		3		4		5		6	
12月	7		8		9		10		11		12		13	
	14		15		16		17		18		19		20	
	21		22		23		24		25		26		27	
	28		29		30		31		1	元旦	2		3	
1月	4		5		6		7	定期試験	8	定期試験	9	定期試験	10	
	11		12	成人の日	13	定期試験	14	定期試験	15	追試験	16	追試験	17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26		27		28	臨床実習Ⅱ	29	臨床実習Ⅱ	30	臨床実習Ⅱ	31	
2月	1		2	臨床実習Ⅱ	3	臨床実習Ⅱ	4	臨床実習Ⅱ	5	臨床実習Ⅱ	6	臨床実習Ⅱ	7	
	8		9	臨床実習Ⅱ	10	臨床実習Ⅱ	11	建国記念日	12	臨床実習Ⅱ	13	臨床実習Ⅱ	14	
	15		16	臨床実習Ⅱ	17	臨床実習Ⅱ	18	臨床実習Ⅱ	19		20		21	
	22		23	天皇誕生日	24		25	不合格者発表	26		27		28	
3月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9		10	再試験	11	再試験	12		13		14	
	15		16		17	卒業式	18		19		20	春分の日	21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	29		30		31									

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-2-CLT-02

科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊　弘人　中川 大介 江畑　綾　小松 有希		評価の方法	実習先評価： 知識・人物・適正	50 %
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	3 単位		学内評価: 準備・報告書等	50 %
						授業時間数	135 時間			
				授業形態	実習	授業回数	－ 回			

授業の概要	学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能と考察する能力を向上させることを目的とする。対象者の全体像把握のため、臨床実習指導者の指導のもと検査を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案及び治療目標の設定ができるよう学修する。 実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から今後の課題と目標を考察する。さらには実習後の症例報告書の作成と報告会を通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。
到達目標	適切な検査法を選択・実施し、総合的な評価ができる。さらに評価内容をまとめ、的確に説明することができる。
学修者への期待等	自らの足りないところを明確にし、次の努力目標としてほしい。

授業計画

1．実習期間
1単位　　45時間
　実習時期　1月4週～2月3週の間で3週

２．実習の目的
学内において、言語聴覚障害の状態を把握するための評価方法などをグループワークなどを通じて学修を深める。実習施設において、学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能及び考察能力を向上させる。

３．実習の目標（ねらい）
1）治療プログラムの立案ができる。
2）治療目標の設定ができる。
3）言語病理学的診断を行い、問題点を抽出できる。

４．実習計画
　オリエンテーション　実習前8時間　実習後7時間　計15時間
1）実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。
2）実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。
3）実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。
4）指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査を選択し実施する。
5）長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。
6）毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。
7）実習期間終了後、実習報告書を提出する。

教科書	特に指定しない。
参考文献	適宜紹介する
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

2025年度　言語聴覚学科3年生　年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月					1		2		3	入学式	4	オリエンテーション	5	
	6		7	健康診断	8		9		10		11		12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21		22		23		24		25		26	
	27		28		29	昭和の日	30		1		2		3	憲法記念日
5月	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7		8		9		10	
	11		12		13		14	臨床実習Ⅲ	15	臨床実習Ⅲ	16	臨床実習Ⅲ	17	
	18		19	臨床実習Ⅲ	20	臨床実習Ⅲ	21	臨床実習Ⅲ	22	臨床実習Ⅲ	23	臨床実習Ⅲ	24	
	25		26	臨床実習Ⅲ	27	臨床実習Ⅲ	28	臨床実習Ⅲ	29	臨床実習Ⅲ	30	臨床実習Ⅲ	31	
6月	1		2	臨床実習Ⅲ	3	臨床実習Ⅲ	4	臨床実習Ⅲ	5	臨床実習Ⅲ	6	臨床実習Ⅲ	7	
	8		9	臨床実習Ⅲ	10	臨床実習Ⅲ	11		12		13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23		24		25	臨床実習Ⅳ	26	臨床実習Ⅳ	27	臨床実習Ⅳ	28	
	29		30	臨床実習Ⅳ	1	臨床実習Ⅳ	2	臨床実習Ⅳ	3	臨床実習Ⅳ	4	臨床実習Ⅳ	5	
7月	6		7	臨床実習Ⅳ	8	臨床実習Ⅳ	9	臨床実習Ⅳ	10	臨床実習Ⅳ	11	臨床実習Ⅳ	12	
	13		14	臨床実習Ⅳ	15	臨床実習Ⅳ	16	臨床実習Ⅳ	17	臨床実習Ⅳ	18	臨床実習Ⅳ	19	
	20		21	海の日	22	臨床実習Ⅳ	23	臨床実習Ⅳ	24		25		26	
	27		28		29		30		31		1		2	
8月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11	山の日	12		13		14		15		16	
	17		18		19		20		21	不合格者発表	22		23	
	24		25		26		27		28	再試験	29	再試験	30	
	31		1		2		3		4		5		6	
9月	8		8		9		10		11		12		13	
	15		15	敬老の日	16		17		18		19		20	
	22		22		23	秋分の日	24		25		26		27	
	29		29		30									

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度　言語聴覚学科3年生　年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月							1		2		3		4	
	5		6		7		8		9		10		11	
	12		13	スポーツの日	14		15		16		17		18	
	19		20		21		22		23		24		25	
	26		27		28		29		30		31		1	
11月	2		3	文化の日	4		5		6		7		8	
	9		10		11		12		13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23	勤労感謝の日	24	振替休日	25		26		27		28		29	
	30		1		2		3		4		5		6	
12月	7		8		9		10		11		12		13	
	14		15		16		17	定期試験	18	定期試験	19	定期試験	20	
	21		22	定期試験	23	定期試験	24	追試験	25	追試験	26		27	
	28		29		30		31		1	元旦	2		3	
1月	4		5		6		7		8	不合格者発表	9		10	
	11		12	成人の日	13		14		15	再試験	16	再試験	17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26		27		28		29		30		31	
2月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9		10		11	建国記念日	12		13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23	天皇誕生日	24		25		26		27		28	
3月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9		10		11		12		13		14	
	15		16		17	卒業式	18		19		20	春分の日	21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	29		30		31									

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-PCL-03

科目名	神経心理学				単位認定者	鈴木將太		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			

授業の概要	大脳の構造（脳溝・脳回・脳葉とその細部）と機能について学ぶ。画像を撮影する装置（CT、MRI、SPECTなど）の特徴を知る。言語聴覚療法を行う上で、直面する頻度の高い、脳画像の読影の知識を修得する。正常例を基に水平断、冠状断、矢状断から部位を同定できるよう学ぶ。脳画像に関しては、各高次脳機能障害、各失語症に対応する画像の見方について学修し、実際の同定を行う。
到達目標	リハビリテーション実施に必要な脳・神経の症状、症状の観察ポイント・観察方法、評価・分析、訓練、予後予測などにつなげるための考え方について理解を深める
学修者への期待等	2年次に学んだ「神経の診かた」から各脳画像（CT、MRI）の特徴や各障害や症状がどのように現れるかを理解する。医療職として広い分野に関連する重要な科目である。しっかり復習して臨んでほしい。

回	授業計画	準備学修
1	中枢神経系の構造・機能①（大脳）適宜グループワークを行う	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
2	中枢神経系の構造・機能②（脳葉）　適宜グループワークを行う	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
3	中枢神経系の構造・機能③（間脳、視床など）適宜グループワークを行う	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
4	中枢神経系の構造・機能④（大脳基底核など）適宜グループワークを行う	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
5	中枢神経系の構造・機能⑤（大脳辺縁系など）適宜グループワークを行う	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
6	小脳の構造・機能、脳神経（Ⅰ-Ⅵ）　適宜グループワークを行う	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
7	脳神経（Ⅶ-Ⅻ）　適宜グループワークを行う	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
8	脳血管（灌流域、走行）　適宜グループワークを行う	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
9	脳画像（1）CT、MRIの特徴　適宜グループワークを行う	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
10	脳画像（2）水平断①（健常例の読影、病巣）　適宜グループワークを行う	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
11	脳画像（3）水平断②（病巣と症状）　適宜グループワークを行う	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
12	脳画像（4）冠状断①（健常例の読影、病巣）　適宜グループワークを行う	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
13	脳画像（5）冠状断②（病巣と症状）　適宜グループワークを行う	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
14	脳画像（6）矢状断①（健常例の読影、病巣）　適宜グループワークを行う	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
15	脳画像（7）矢状断①（病巣と症状）　適宜グループワークを行う	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）

教科書	『CD-ROMでレッスン　脳画像の読み方（最新版）』石原 健司著　医歯薬出版 『病気がみえるvol.7　脳と神経（最新版）』　医療情報科学研究所 編　メディックメディア
参考文献	
備考	授業内で実施した課題については、採点後に返却し、フィードバックを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として、15年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-1-PCL-07

科目名	心理学系総論			単位認定者	渡邊　弘人 小松　有希　鈴木將太		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位	小テスト（中間）	30　%
				授業形態	講義	授業時間数	30　時間		
						授業回数	15　回		

授業の概要	心理学は行動と心的処理過程の科学である。我々の行動と心的世界は極めて多様であるために心理学の領域も広汎であり、多くのアプローチが存在する。言語聴覚士は心理的な葛藤や、脳損傷による知覚・認知・学習の困難、発達に問題を抱えるさまざまな年齢層の人々を担当する職業であることから、心理学の素養が欠かせない。生涯発達心理学や臨床心理学をはじめ、福祉心理学、高次脳機能の基盤となる脳の領域に踏み入った神経心理学、知覚、学習と記憶、思考、理解等を研究する認知心理学、さらには心理現象を把握するために用いる統計的な研究手法を学ぶ心理測定法など、これまで学んできた心理学を包括的に概観し、それぞれのポイントと相互関連性について学修する。
到達目標	心理学は多岐にわたる領域である。特に言語聴覚士が理解しておかなければならない生涯発達心理学、認知学習心理学、聴覚心理学、心理測定法などについて再度確認し、学修を深める。
学修者への期待等	国家試験にも出題される重要な分野であるため、1.2年生で学んだ本領域の知識を再確認し、理解を深めてほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	認知学習心理学①　古典的条件付けと道具的条件付け　　適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊弘人 鈴木將太
2	認知学習心理学②　学習と思考 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊弘人 鈴木將太
3	認知学習心理学③　知覚 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊弘人 鈴木將太
4	認知学習心理学④　記憶 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊弘人 鈴木將太
5	聴覚心理学①　音の心理学単位 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊弘人 鈴木將太
6	聴覚心理学②　音の心理的現象 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊弘人 鈴木將太
7	心理測定法①　測定法 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊弘人 鈴木將太
8	心理測定法②　尺度 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊弘人 鈴木將太
9	生涯発達心理学①　研究法 グループワーク・ディスカッション	国家試験過去問題を復習すること。 約60分	小松有希 鈴木將太
10	生涯発達心理学②　研究法と新生児期 グループワーク・ディスカッション	国家試験過去問題を復習すること。 約60分	小松有希 鈴木將太
11	生涯発達心理学③　幼児期・児童期 グループワーク・ディスカッション	国家試験過去問題を復習すること。 約60分	小松有希 鈴木將太
12	生涯発達心理学④　青年期から老年期 グループワーク・ディスカッション	国家試験過去問題を復習すること。 約60分	小松有希 鈴木將太
13	臨床心理学①　心理検査 グループワーク・ディスカッション	国家試験過去問題を復習すること。 約60分	小松有希 鈴木將太
14	臨床心理学②　行動療法・認知行動療法 グループワーク・ディスカッション	国家試験過去問題を復習すること。 約60分	小松有希 鈴木將太
15	臨床心理学③　心理療法 グループワーク・ディスカッション	国家試験過去問題を復習すること。 約60分	小松有希 鈴木將太

教科書	『2026年版　言語聴覚士国家試験過去３年分の問題と解説』言語聴覚士国家試験対策委員会　大揚社 2025年7月頃発売予定 『言語聴覚士国家試験　必修ポイント2025　ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験　必修ポイント2025　ST基礎科目』医歯薬出版
参考文献	
備考	課題についてのフィードバックは、次回講義時、またはそれまでに口頭やレポートに記載する形で行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として、5年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-1-LGS-02

科目名	日本語文法学				単位認定者	阪口　慧		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	失語症や言語発達など、言語の障害と発達のリハビリテーションのために、日本語文法の理解は欠かせない。本講義では、言語学で学んだ統語論を、日本語に特化して学んでいく。言葉の単位として文章―段落―文―文節―単語を学び、文や文節の成分がどのように関わり合って文を組み立てているのかを学修する。品詞は、動詞（活用や種類を含む）、形容詞、形容動詞、名詞（代名詞）、副詞、連体詞、接続詞及び感動詞、さまざまな助動詞については、その意味や活用、接続の仕方を学修する。助詞は格助詞、接続助詞、副助詞及び終助詞の四種類に分類し、品詞の見分けがつきにくい語については、特にその判別の仕方を学ぶ。さらに敬語について、尊敬語、謙譲語及び丁寧語の三つの種類に分けて学んでいく。
到達目標	日本語文法を中心に学習し、言語学、音声学の総体的な知識を習得する。
学修者への期待等	・日本語を中心に日本語の文法、言語学的知識、音声学的知識を習得することを目指す。言語聴覚士国家試験で出題されるトピックを中心に、問題を解くために必要な言語学的・音声学的知識がどのようなものかを説明する。また、概念の理解度を確認するために、アクティブラーニングの一環としてペアワーク、グループワークを行うため、学修者には積極的な議論への参加を通して、言語学・音声学の理解度を高めることが期待される。 ・前回授業の復習と次回授業の予習、1～2年次で学習した内容の振り返りで60分程度の準備学修を期待する。

回	授業計画	準備学修
1	ガイダンス 言語聴覚士に必要な日本語文法・言語学・音声学の知識	（準備）言語学・音声学に関して自身の苦手な箇所・トピックを確認する　(60分程度)
2	日本語の音声学・音韻論(1)（音素・異音）	（準備）音素・異音に関して予習すること（60分程度）
3	日本語の音声学・音韻論(2)（モーラ・音節）	（準備）モーラ・音節に関して予習すること（60分程度）
4	日本語の音声学・音韻論(3)（アクセント）	（準備）アクセントに関して予習すること（60分程度）
5	日本語の音声学・音韻論(4)（音韻現象）	（準備）音韻現象に関して予習すること（60分程度）
6	日本語の形態論・語構成(1)（形態素・複合語）	（準備）形態素・複合語に関して予習すること (60分程度)
7	日本語の形態論・語構成(2)（語構成のプロセス）	（準備）語構成のプロセスに関して予習すること (60分程度)
8	日本語の形態論・語構成(3)（品詞）	（準備）品詞に関して予習すること（60分程度）
9	日本語の文法(1)（活用・音便）	（準備）活用・音便に関して予習すること（60分程度）
10	日本語の文法(2)（助詞・節）	（準備）助詞・節に関して予習すること（60分程度）
11	日本語の文法(3)（敬語・正用と誤用）	（準備）敬語・正用と誤用に関して予習すること (60分程度)
12	言語学的知識の補完(1)（理論言語学・社会言語学）	（準備）理論言語学・社会言語学に関して予習すること (60分程度)
13	言語学的知識の補完(2)（認知言語学・カテゴリ）	（準備）認知言語学・カテゴリに関して予習すること (60分程度)
14	言語学的知識の補完(3)（言語学一般）	（準備）言語学一般に関して予習すること（60分程度）
15	全体総括と復習（及び模擬試験解説と検討）	（準備）模擬試験・国家試験で解けなかった問題を準備して授業時に質問できるようにしておくこと (60分程度)

教科書	プリントにて対応
参考文献	・言語学基本問題集（佐久間淳一編　研究社） ・これから始める人のための入門書　言語学入門（佐久間淳一・加藤重広・町田健 著　研究社）
備考	授業の進度や学修者の理解状況で順序や内容を変更することがあります。 課題やレポートがある場合は、次回の授業内でフィードバックする。講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-LSG-03

科目名	言語聴覚障害学総論				単位認定者	渡邊　弘人　中川　大介 小松　有希　江畑　綾 鈴木　將太		評価の方法	試験（筆記）	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	実習を経て評価の実際を体験した3年次において、その経験を基礎とし、各言語聴覚障害及び摂食嚥下障害の特徴と、その評価に必要な知識を総括する。本講義では、原疾患である神経疾患、呼吸器・循環器疾患、悪性新生物、遺伝子疾患などの病態理解とともに、高次脳機能障害（失語症を含む）や言語発達遅滞、構音障害の言語病理学的症状、聴覚障害や摂食嚥下障害について、検査法の基本的な名称と意義、実施方法の理論的根拠及び的確に実施できる知識を横断的にとらえ直す。
到達目標	言語聴覚士の専門領域について、臨床実習で経験した内容と知識を結び付け、理解を深める。
学修者への期待等	患者、利用者から学ばせてもらったことを最大限活かせるよう、積極的に講義に臨んでもらいたい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	障害を引き起こす疾患①　脳血管障害～嚥下障害～ 症例検討　適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊 弘人 鈴木 將太
2	脳血管障害～嚥下障害～　他職種との症例検討（合同講義）　カンファレンスを想定したディスカッション	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊 弘人 鈴木 將太 佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
3	脳血管障害～嚥下障害～　他職種との症例検討（合同講義）　評価・初回対応のグループ発表	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊 弘人 鈴木 將太 佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
4	障害を引き起こす疾患②　神経変性疾患 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	江畑 綾 鈴木 將太
5	障害を引き起こす疾患③　悪性新生物 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	江畑 綾 鈴木 將太
6	悪性新生物が引き起こす運動系障害の概説 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	江畑 綾 鈴木 將太
7	障害を引き起こす疾患④　遺伝子疾患 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	江畑 綾 鈴木 將太
8	高次脳機能障害に対する検査の名称と意義①　実施方法について(適宜グループワーク・ディスカッション)	国家試験過去問題を復習しておくこと(60分)	小松 有希 鈴木 將太
9	高次脳機能障害に対する検査の名称と意義②　実施方法について(適宜グループワーク・ディスカッション)	国家試験過去問題を復習しておくこと(60分)	小松 有希 鈴木 將太
10	言語発達障害に対する検査の名称と意義①　実施方法について(適宜グループワーク・ディスカッション)	国家試験過去問題を復習しておくこと(60分)	小松 有希 鈴木 將太
11	言語発達障害に対する検査の名称と意義②　実施方法について(適宜グループワーク・ディスカッション)	国家試験過去問題を復習しておくこと(60分)	小松 有希 鈴木 將太
12	言語発達障害に対する検査の名称と意義③　実施方法について(適宜グループワーク・ディスカッション)	国家試験過去問題を復習しておくこと(60分)	小松 有希 鈴木 將太
13	遺伝子疾患が引き起こす聴覚障害の概説と検査 適宜ディスカッションを行う	【事前】該当テキストを復習してくること（30分）	中川 大介 鈴木 將太
14	発声発語に対する検査の名称と意義、実施方法(グループワーク、ディスカッション)	【事前】該当テキストを復習してくること（30分）	中川 大介 鈴木 將太
15	嚥下障害に対する検査の名称と意義、実施方法(グループワーク、ディスカッション)	【事前】該当テキストを復習してくること（30分）	中川 大介 鈴木 將太

教科書	なし
参考文献	①　『言語聴覚士国家試験必修ポイント2025　ST専門科目』　医歯薬出版株式会社 ②　『言語聴覚士国家試験必修ポイント2025　ST基礎科目』　医歯薬出版株式会社
備考	授業内課題は、採点後に返却しフィードーバックを行う。 2､3回は歯科衛生学科「口腔リハビリテーション演習」と合同で講義を行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として、10年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-LSG-04

科目名	言語聴覚障害学臨床応用				単位認定者	櫻庭 ゆかり　渡邊 弘人 江畑 綾 鈴木將太		評価の方法	試験（筆記）	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	実習を経て訓練の実際を体験した3年次において、その経験を基礎とし、各言語聴覚障害及び摂食嚥下障害の特徴と、訓練に必要な知識を総括する。本講義では、高次脳機能障害（失語症を含む）や言語発達遅滞、発声発語障害などの言語病理学的な症状や摂食嚥下障害について、対応し得る訓練法の名称と意義、実施方法の理論的根拠及び的確に実施するための知識と手技をとらえ直す。
到達目標	臨床実習で経験したリハビリテーション方法について、各専門領域ごと訓練法の知識と結び付け、理解を深める。
学修者への期待等	臨床実習で学んだことを醸成するためには、積極的に学ぶ姿勢が大切である。国家試験にも関連する内容のため欠席せずに受講してもらいたい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	発声発語器官の解剖	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	櫻庭ゆかり 鈴木將太
2	発声発語器官の神経	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	櫻庭ゆかり 鈴木將太
3	発声発語器官の感覚	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	櫻庭ゆかり 鈴木將太
4	発声発語器官の感覚・運動障害	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	櫻庭ゆかり 鈴木將太
5	発声発語器官の運動障害	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	櫻庭ゆかり 鈴木將太
6	聴覚障害の評価①　外耳・中耳 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊弘人 鈴木將太
7	聴覚障害の評価②　内耳 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊弘人 鈴木將太
8	聴覚障害の対応①　補聴器 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊弘人 鈴木將太
9	聴覚障害の対応②　人工内耳 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊弘人 鈴木將太
10	失語症①　病巣、症状 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊弘人 鈴木將太
11	失語症②　検査・評価、分析、訓練 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊弘人 鈴木將太
12	高次脳機能障害　病巣、症状　評価・検査、訓練 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊弘人 鈴木將太
13	小児の発達　言語機能、運動、心理	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	江畑綾 鈴木將太
14	言語発達遅滞①　疾病分類、病態	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	江畑綾 鈴木將太
15	言語発達遅滞②　評価、分析、検査、訓練	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	江畑綾 鈴木將太

教科書	なし
参考文献	『最新版　言語聴覚士国家試験過去３年分の問題と解説』　言語聴覚士国家試験対策委員会　編　大揚社
備考	授業内課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として、5年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	●

科目ナンバリング
ST-2-HDS-06

科目名	聴覚障害学総論				単位認定者	渡邊　弘人 鈴木　將太		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位		小テスト （中間）	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	各聴覚障害領域の総まとめとして、今まで学んできた各論をつなげて横断的に学修し、聴覚障害領域についての理解を深める。聴覚障害を引き起こす疾患が聴器のどの部分に影響を及ぼすのか、解剖学的、生理学的に理解を深める。特に伝音難聴や感音難聴では原因による症状が異なるため、聴器メカニズムの深い理解を要する。聴覚障害を補償するための方法として補聴器や人工内耳が挙げられるが、年代によって聴覚障害者への支援が異なるため、総合的な聴覚領域のリハビリテーション支援について理解を深めていく。
到達目標	聴覚領域を理解するためには欠かすことのできない解剖生理と疾患を結び付けて理解を深める。
学修者への期待等	国家試験領域でもよく出題される領域なので復習をしっかりと行い、積極的に受講してほしい。

回	授業計画	準備学修
1	伝音機構①　外耳の解剖と生理 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
2	伝音機構②　外耳の音響的効果 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
3	伝音機構③　中耳の解剖と生理 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
4	伝音機構④　中耳の音響的効果 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
5	伝音機構⑤　外耳・中耳の疾患と症状 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
6	伝音機構⑥　外耳・中耳の疾患と聴覚的影響 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
7	伝音機構⑦　伝音難聴の特徴と対応法 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
8	感音機構①　内耳の解剖と生理 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
9	感音機構②　内耳の音響的効果 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
10	感音機構③　後迷路の解剖と生理 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
11	感音機構④　後迷路の音響的効果 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
12	感音機構⑤　内耳・後迷路の疾患と症状 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
13	感音機構⑥　内耳・後迷路の疾患と聴覚的影響 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
14	感音機構⑦　感音難聴の特徴と対応法 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
15	伝音難聴と感音難聴のまとめ 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分

教科書	『言語聴覚士国家試験　必修ポイント2025　ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験　必修ポイント2025　ST基礎科目』医歯薬出版
参考文献	
備考	授業内課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として、10年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-HDS-07

科目名	音と聴力				単位認定者	渡邊　弘人 鈴木　將太		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位		小テスト （中間）	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	聴覚検査の構成は、音刺激を耳が受信し、その反応を計測することで得られる。すなわち音の性質と耳の性質の両方の特性を利用したものである。そのため両方の理解を深めることで臨床像の把握ができる。本講義では、外耳・中耳・内耳に音が入力されたときの増強作用と聴覚フィルタ理論、強大音に対する防御作用、後迷路性で起こる音の周波数分析とカクテルパーティー効果、両耳聴効果などについての理解を深め、音と聴力を双方向的に総括する。
到達目標	聴覚機構の解剖生理と各種聴覚検査、聴覚心理学的現象との関係を明確にし、理解を深める。
学修者への期待等	国家試験にもよく出題される領域なので、積極的な受講を望む。

回	授業計画	準備学修
1	純音聴力検査①　気道聴力検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
2	純音聴力検査②　骨導聴力検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
3	純音聴力検査と聴覚生理との関係 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
4	中耳機能検査①　ティンパノメトリ検査の役割と意義　　適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
5	中耳機能検査②　耳小骨筋反射検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
6	中耳機能検査と聴覚生理との関係 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
7	内耳機能検査①　SISI検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
8	内耳機能検査②　ABLB検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
9	内耳機能検査③　自記オージオメトリ検査の役割と意義　　適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
10	内耳機能検査と聴覚生理との関係～場所説と頻度説～　　適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
11	内耳機能検査と聴覚生理との関係～聴覚フィルタ～ 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
12	聴性脳幹反応聴力検査の役割と意義　　適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
13	聴性定常反応聴力検査の役割と意義　　適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
14	聴覚機構の解剖生理と聴覚心理学的現象の関係 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
15	まとめ（重要ポイントの振り返り） 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分

教科書	「言語聴覚士国家試験　必須ポイント2025　ST専門科目」医歯薬出版 「言語聴覚士国家試験　必須ポイント2025　ST基礎科目」医歯薬出版
参考文献	
備考	授業内課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として、10年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-2-CLT-03

科目名	臨床実習Ⅲ（総合実習前期）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊　弘人　中川 大介 江畑　綾　小松 有希		評価の方法	実習先評価： 知識・人物・適正	50 %
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	4 単位		学内評価: 準備・報告書等	50 %
						授業時間数	180 時間			
				授業形態	実習	授業回数	－ 回			

授業の概要	診療参加型によって言語聴覚療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者への評価の実施から評価結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定と治療プログラム立案、治療の実施から効果判定までの臨床過程を経験する。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察する。
到達目標	指導者の指導の下、評価（方法の選択、問題点抽出など）、目標設定、訓練（プログラムの立案、プログラムの実施、介入考察）を実施できること
学修者への期待等	言語聴覚士の臨床活動を通して、自身の足りない点を含め、自らと向き合ってほしい。そのうえで、今後の学修における努力目標を明確にできることを期待する。

授業計画

1．実習期間
4単位　　180時間
　実習時期　5月3週～6月2週の間で4週

２．実習の目的
学内において、グループワークを通じて、評価内容や訓練プログラムを深め、より良い訓練内容、支援について考察する。臨床施設においては、診療参加型によって言語聴覚療法技能の向上を目指す。対象者への評価の実施から評価結果に対するアセスメント、治療の実施から効果判定までの臨床課程を経験する。

３．実習の目標（ねらい）
1）臨床実習指導者の指導のもと、評価方法を選択し、実施できる。
2）問題点を抽出し、ICFに基づいて整理できる。
3）長期目標、短期目標の設定及び訓練プログラムの立案ができる。
4）臨床実習指導者の指導のもと、治療プログラムを実施することができる。
5）治療プログラムの妥当性や症例の全体像、一連の言語聴覚療法介入に関する考察をまとめることができる。

４．実習計画
　オリエンテーション　実習前25時間
1）実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関とする。
2）実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。
3）実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。
4）指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査などを選択し実施する。
5）短期目標、長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。
6）指導者の指導のもと、治療プログラムを立案し、実施する。
7）言語聴覚療法介入に関して考察する。
8）毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。
9）実習期間終了後、実習報告書を提出する。

教科書	特に設定しない。
参考文献	適宜紹介する。
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-2-CLT-04

科目名	臨床実習Ⅳ（総合実習後期）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊　弘人　中川 大介 江畑　綾　小松 有希		評価の方法	臨床実習施設評価	50 %
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	4 単位		学内評価	50 %
						授業時間数	180 時間			
				授業形態	実習	授業回数	－ 回			

授業の概要	「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者に一連の言語聴覚療法を提供しながら、臨床現場における言語聴覚士の役割と責任について理解し、チームの一員としての自覚を持って行動できるようになることを目標とする。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察する。さらには、実習後の症例報告作成と発表を通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。
到達目標	「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上を目指す。
学修者への期待等	これまでの学修してきた内容の総括なるのが臨床実習Ⅳであるため、一つ一つの事柄に真摯に向き合い、自身の課題を見つけてもらいたい。

授業計画

1．実習期間
4単位　　180時間
　実習時期　6月4週～7月4週の間で4週

２．実習の目的
「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、臨床実習施設では、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上をめざす。実習後、学内において、症例報告作成及び発表・ディスカッションを通じて、臨床現場で身につけた知識の習熟を図る。

３．実習の目標（ねらい）
1）臨床実習指導者の指導のもと、再評価を行うことができる。
2）症例再評価をもとに、チームアプローチ、予後予測、転帰に絡めた支援の方法などを考察できる。
3）臨床現場における言語聴覚士の役割と責任について理解し、チームの一員としての自覚を持って行動できるようになる。

４．実習計画
　オリエンテーション　実習後15時間
1）実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関とする。
2）実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。
3）実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。
4）指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査などを選択し実施する。
5）短期目標、長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。
6）指導者の指導のもと、治療プログラムを立案し、実施する。
7）言語聴覚療法介入に関して考察する。
8）再評価と再評価の考察を実施する。
9）再評価の結果を踏まえて、治療プログラムを見直す。
10）毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。
11）実習期間終了後、臨床実習Ⅲまたは臨床実習Ⅳでの症例を選択し、実習報告書を作成し、提出する。

教科書	使用しない
参考文献	適宜紹介する
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-3-SOC-02

科目名	生命科学の基礎				単位認定者	渡邊　弘人　小松　有希 中村　裕子　鈴木將太		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1　単位		小テスト(中間)	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	生命科学とは、生命の営みを細胞・分子といったレベルで研究し、人の暮らしに役立てようとする学際的、応用的な学問で、近年、発展が目覚ましい。中でも生命に関する分野は、再生医療や遺伝子治療などリハビリテーション医療に従事する者として知っておくべき内容が含まれる。本講義では、最新の医療情報を理解する基礎を養成することを目的に、すでに学んだ細胞と神経、遺伝、代謝、免疫に関し、応用的に理解を深める。さらには生命を対象とする学問には欠かせない倫理学も併せて学修する。
到達目標	言語聴覚士として臨床にあたる上で、医療・福祉専門職として担う責任と覚悟を学ぶ。さらに患者様へ示す尊厳の一つである「リハビリテーションのエビデンス」について、生命科学の基礎とむずびつけながら学修する
学修者への期待等	臨床家として患者様に対峙する上で大変重要な内容となる。特に生命倫理、職業倫理は、人が人を診るということを深く考えなければならない。欠席せずしっかり受講してもらいたい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	細胞について、その構成と役割、エネルギー産生の仕組み（適宜ディスカッションを行う。）	関連領域の講義を復習すること。（120分）	渡邊弘人 鈴木將太
2	細胞の働きを支える循環器系の構成とその役割について　（適宜ディスカッションを行う。）	関連領域の講義を復習すること。（120分）	渡邊弘人 鈴木將太
3	身体の防衛を担う免疫系について、その構成と役割（適宜ディスカッションを行う。）	関連領域の講義を復習すること。（120分）	渡邊弘人 鈴木將太
4	リハビリテーションの視点での神経細胞の構成と機能（適宜ディスカッションを行う。）	関連領域の講義を復習すること。（120分）	渡邊弘人 鈴木將太
5	言語聴覚障害に関わる神経領域①（高次脳機能障害）（適宜ディスカッションを行う。）	関連領域の講義を復習すること。（120分）	渡邊弘人 鈴木將太
6	言語聴覚障害に関わる神経領域②（構音障害、嚥下系）（適宜ディスカッションを行う。）	関連領域の講義を復習すること。（120分）	渡邊弘人 鈴木將太
7	身体の役割①　循環関連（ペアワーク・ディスカッションを行う）	講義の内容について復習をすること(60分)	小松有希 鈴木將太
8	身体の役割②　代謝について（ペアワーク・ディスカッションを行う）	講義の内容について復習をすること(60分)	小松有希 鈴木將太
9	身体の役割③　遺伝について（ペアワーク・ディスカッションを行う）	講義の内容について復習をすること(60分)	小松有希 鈴木將太
10	解剖生理のまとめ（ペアワーク・ディスカッションを行う）	講義の内容について復習をすること(60分)	小松有希 鈴木將太
11	病理学のまとめ（ペアワーク・ディスカッションを行う）	講義の内容について復習をすること(60分)	小松有希 鈴木將太
12	生命倫理、臨床倫理の視点、職業倫理と倫理綱領 生命倫理、臨床倫理とは？言葉の障害を持つ人の尊厳を維持するにはどうするか。	講義の内容について復習をすること(60分)	中村　裕子
13	職業倫理と倫理綱領　職業倫理と倫理綱領を「尊厳ある臨床実践」に活かすには	講義の内容について復習をすること(60分)	中村　裕子
14	尊厳ある臨床を展開するための生命倫理学の基礎 倫理判断の方法　倫理的解決の原則	講義の内容について復習をすること(60分)	中村　裕子
15	尊厳ある臨床を展開するための生命倫理学の応用 倫理的臨床の実践方法－実習時に経験した事例を通して学ぶ	講義の内容について復習をすること(60分)	中村　裕子

教科書	①『標準言語聴覚障害学　言語聴覚障害学概論』藤田郁代他　編　医学書院 ②『言語聴覚障害療法シリーズ　改定　言語聴覚障害総論Ⅰ』倉内紀子　編著　建帛社
参考文献	臨床家のための生命倫理学　中村裕子監訳　協同医書出版
備考	授業内課題は、採点後に返却しフィードバックを行う

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として、10年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-3-SOC-03

科目名	口腔顔面の感覚・運動障害総論				単位認定者	櫻庭　ゆかり 中川　大介 鈴木將太		評価の方法	試験(筆記・レポート)	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	実習を通して職務の理解が進んだ3年次に、口腔顔面の感覚・運動に関する総括を行う。口腔顔面の運動は自ら視認できない特徴を持つことから感覚への依存度が高いと言われている。解剖学、生理学を基礎として耳鼻咽喉科学、嚥下障害、運動障害性構音障害などの領域で縦断的に学んできた感覚運動障害を、神経学的側面、器質的側面、機能的側面から見つめ直し、横断的に総括する。
到達目標	発声発語器官の特徴が説明でき、適切なリハビリテーションプログラムが立案できる、
学修者への期待等	断片的に学んできた知識を、ここで総まとめとして整理してほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	口腔顔面の神経機構　グループ学習を含む	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭ゆかり 鈴木將太
2	運動障害と構音障害１　運動障害性構音障害の種類　グループ学習を含む	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭ゆかり 鈴木將太
3	運動障害と構音障害２　運動障害性構音障害の評価と訓練　グループ学習を含む	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭ゆかり 鈴木將太
4	構音と発達①　機能性構音障害について　グループ学習を含む	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭ゆかり 鈴木將太
5	構音と発達②　機能性構音障害の評価と訓練　グループ学習を含む	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭ゆかり 鈴木將太
6	器質性構音障害①　器質性構音障害の種類　グループ学習を含む	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭ゆかり 鈴木將太
7	器質性構音障害②　器質性構音障害の手術と訓練　グループ学習を含む	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭ゆかり 鈴木將太
8	摂食嚥下障害①　正常の摂食嚥下機能　グループ学習を含む	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭ゆかり 鈴木將太
9	摂食嚥下障害②　摂食嚥下機能の評価　グループ学習を含む	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭ゆかり 鈴木將太
10	摂食嚥下障害③　摂食嚥下機能の障害　グループ学習を含む	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭ゆかり 鈴木將太
11	摂食嚥下障害④　摂食嚥下機能の訓練　グループ学習を含む	【事後】資料を復習すること（30分）	中川大介 鈴木將太
12	咽喉頭の筋・骨格の神経支配、感覚・運動	【事後】資料を復習すること（30分）	中川大介 鈴木將太
13	咽喉頭の感覚・運動障害	【事後】資料を復習すること（30分）	中川大介 鈴木將太
14	音声障害・運障害性構音障害のリハビリテーション　まとめ	【事後】資料を復習すること（30分）	中川大介 鈴木將太
15	嚥下障害のリハビリテーション　まとめ	【事後】資料を復習すること（30分）	中川大介 鈴木將太

教科書	言語聴覚士国家試験　ST専門科目2025年　医歯薬出版社
参考文献	『病気がみえるvol.7　脳と神経（第2版）』医療情報科学研究所 編　メディックメディア
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-3-SOC-12

科目名	視覚言語論			単位認定者	山本　はづき		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位		
						授業時間数	30　時間		
				授業形態	講義	授業回数	15　回		

授業の概要	通常、意思伝達に使われる「話す」「聞く」による言語体系を音声言語と呼ぶが、それに並ぶ言語体系として視覚による伝達がある。一般によく使われる手段に手話がある。より多くのコミュニケーション手段を駆使し、提案できるという意味で、言語聴覚士が手話を理解できることには意義がある。本講義では手話による基本的な挨拶と日常的表現を学ぶ。
到達目標	①手話を通して聴覚障害者についての理解を深める、②基礎的な手話表現を学ぶ、 ③聴覚障害者とのコミュケーションの方法を学ぶ
学修者への期待等	前半は座学と手話演習を行います。手話演習では手技能検定5級程度の手話を取り扱っていきたいと思います。 後半の演習ではSLTAやS-S法を聴覚障害者へ実施すると仮定して手話及びその他の手段での伝達の仕方を実際に考えていただきたいと思います。

回	授業計画	準備学修
1	座学：手話とは 手話演習：名前	シラバスをご確認ください。
2	座学：ろう教育の歴史 手話演習：基本的な手話表現	前回の手話演習の内容をご確認ください。
3	座学：きこえのはたらきとしくみ 手話演習：あいさつ	前回の手話演習の内容をご確認ください。
4	座学：難聴の種類と程度 手話演習：数字	前回の手話演習の内容をご確認ください。
5	座学：補聴器と人工内耳 手話演習：動詞	前回の手話演習の内容をご確認ください。
6	座学：人工内耳のマッピング 手話演習：形容詞	前回の手話演習の内容をご確認ください。
7	座学：聴覚障害と遺伝子 手話演習：病院で使える手話	前回の手話演習の内容をご確認ください。
8	座学：聴覚障害者とのコミュニケーション 手話演習：小児施設等で使える手話	前回の手話演習の内容をご確認ください。
9	演習「SLTA①」	
10	演習「SLTA②」	演習課題の提出をお願いします。
11	演習「SLTA③」	演習課題の提出をお願いします。
12	質疑応答 演習「S-S法①」	
13	演習「S-S法②」	演習課題の提出をお願いします。
14	演習「S-S法③」	演習課題の提出をお願いします。
15	質疑応答 当事者へのインタビュー	

教科書	なし
参考文献	中村公枝：標準言語聴覚障害学　聴覚障害　医学書院 山田弘幸：言語聴覚療法シリーズ⑤　改定聴覚障害Ⅰ―基礎編　建帛社
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。 オンデマンドのためリアルタイムでの質疑応答ができません。 座学内容については12回目に質疑応答の時間を設けます。いただいたご質問はそちらで回答します。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として、5年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-3-SOC-13

科目名	補綴・補装具論				単位認定者	櫻庭 ゆかり　渡邊 弘人 小松 有希　中川 大介 高橋 慧		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			

授業の概要	本講義では、すでに各講義において触れられてきた口腔顔面の補綴や補聴器、意思伝達装置等について、補装具の観点から見つめ直す。その基本的構造と機能については領域を超えて学修し、義歯や軟口蓋挙上装置、及び各種補聴器など聴覚補償機器の意義、具体的な使用方法、適合判定について理解を深める。並びに義肢の種類と装着についての理解と使用方法を学修する。
到達目標	各講義において触れられてきた口腔顔面の補綴や補聴器、意思伝達装置等について、補装具の観点から理解を深める。
学修者への期待等	リハビリテーションの臨床において、補綴や補聴器、AAC、補装具は患者・利用者のQOL向上のためには大変重要な内容となる。そのため積極的な受講を望む

回	授業計画	準備学修	担当
1	補綴について　補綴とはなにか	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分	櫻庭　ゆかり
2	義歯の適合，顔面補綴について	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分	櫻庭　ゆかり
3	顎義歯・軟口蓋挙上装置など	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分	櫻庭　ゆかり
4	聴覚補償システム①　補聴器のフィティング適宜グループワークを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
5	聴覚補償システム②　各種補聴器の機能とその適応　適宜グループワークを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
6	聴覚補償システム③　人工内耳マッピング適宜グループワークを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
7	乳幼児の補綴・装用の必要性とは	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30 分	小松　有希
8	乳幼児の補綴・装用　Hotz床・スピーチエイド等	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30 分	小松　有希
9	補装具と構音障害	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30 分	小松　有希
10	顎接触補助床の装用に関する適応と装用効果	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分	中川　大介
11	軟口蓋挙上装置の装用に関する適応と装用効果	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分	中川　大介
12	顎接触補助床/軟口蓋挙上装置の装用時の評価・調整	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分	中川　大介
13	義肢・装具①　基本構造・分類（ディスカッション・ペアワーク含む）	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	高橋　慧
14	義肢・装具②　歩行補助具、車椅子（ディスカッション・ペアワーク含む）	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	高橋　慧
15	義肢・装具③　介助方法、リハビリテーション、指導（ディスカッション・ペアワーク含む）	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	高橋　慧

教科書	なし
参考文献	
備考	授業内課題は、採点後に返却しフィードバックを行う

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
ST-3-SOC-14

科目名	言語聴覚学特別講義Ⅰ				単位認定者	渡邊　弘人 小松　有希　中川　大介 江畑　綾　須賀川　芳夫 鈴木將太		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	自由	３年	開講時期	通年	単位数	2　単位			
						授業時間数	60　時間			
				授業形態	講義	授業回数	30　回			

授業の概要	言語聴覚士の仕事は、多くの基礎的分野に関する知識の上に成り立つ。本講義では、専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、言語聴覚士の幅広い臨床に対応できる人材を目指す。 専門支持科目で学修した臨床歯科医学、呼吸系の構造・機能・病態、音声学、言語学について、総合的に復習し、言語聴覚士の臨床に対応できる人材を目指す。
到達目標	専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、専門展開科目とのつながりについて理解を深める
学修者への期待等	専門支持科目を中心として言語聴覚療法を総合的に見直していく。３年間のまとめとして重要な内容となるため、積極的な受講を望む

回	授業計画	準備学修	担当
1	医学総論	STテキストP2～7、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	中川大介 鈴木將太
2	解剖学・生理学　運動器系・循環器系	STテキストP8～14、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	中川大介 鈴木將太
3	解剖学・生理学　呼吸器系・消化器系　内分泌系	STテキストP14～27、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	中川大介 鈴木將太
4	解剖学・生理学　神経系・感覚系	STテキストP29～36、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	中川大介 鈴木將太
5	病理学　炎症、遺伝、免疫	STテキストP37～43、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	中川大介 鈴木將太
6	内科学　循環器疾患　など	STテキストP45～55、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	江畑綾 鈴木將太
7	内科学　呼吸器疾患　など	STテキストP45～55、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	江畑綾 鈴木將太
8	小児科学　小児神経疾患、神経筋疾患	STテキストP56～69、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	江畑綾 鈴木將太
9	精神医学	STテキストP70～79、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	江畑綾 鈴木將太
10	リハビリテーション医学	STテキストP80～85、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	中川大介 鈴木將太
11	耳鼻咽喉科学　耳科学　適宜グループワークを行う	STテキストP86～90、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	渡邊弘人 鈴木將太
12	耳鼻咽喉科学　口腔・咽頭科学	STテキストP93～102、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	江畑綾 鈴木將太
13	耳鼻咽喉科学　喉頭科学、気道食道科学	STテキストP93～102、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	江畑綾 鈴木將太
14	臨床神経学　神経系の解剖・生理	STテキストP103～108、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	中川大介 鈴木將太
15	臨床神経学　神経学的検査　神経症候学	STテキストP103～110、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	中川大介 鈴木將太

回	授業計画	準備学修	担当
16	臨床神経学　脳血管障害など	STテキストP110～123、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	中川大介 鈴木將太
17	形成外科学　口唇・口蓋裂	STテキストP124～133、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	中川大介 鈴木將太
18	臨床歯科医学、口腔外科学	STテキストP134～143、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	江畑綾 鈴木將太
19	認知・学習心理学(古典的条件付け、オペラント条件付け)(視覚、記憶の効果)　適宜グループワークを行う	STテキストP146～154、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	渡邊弘人 鈴木將太
20	臨床心理学	STテキストP155～159、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	江畑綾 鈴木將太
21	生涯発達心理学（新生児、乳幼児期）	STテキストP160～167、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	小松有希 鈴木將太
22	生涯発達心理学（児童期、青年期、老年期）	STテキストP160～167、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	小松有希 鈴木將太
23	心理測定法	STテキストP168～172、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	小松有希 鈴木將太
24	言語学；言語構造，意味論など	STテキストP174～189、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	江畑綾 鈴木將太
25	音声学	STテキストP190～202、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	江畑綾 鈴木將太
26	音響学	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川芳夫 鈴木將太
27	聴覚心理学　適宜グループワークを行う	STテキストP213～218、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	渡邊弘人 鈴木將太
28	言語発達学	STテキストP219～224、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	小松有希 鈴木將太
29	言語発達学(学童期期)のまとめ	STテキストP219～224、国家試験問題を復習すること（概ね60分）	小松有希 鈴木將太
30	教育制度関連	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川芳夫 鈴木將太
教科書	『言語聴覚士国家試験　必須ポイント2025　ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験　必須ポイント2025　ST基礎科目』医歯薬出版 『2026年版　言語聴覚士国家試験過去３年間の問題と解説』大揚社 2025年7月頃発売予定 『言語聴覚士テキスト　第4版』　医歯薬出版　編著大森孝一		
参考文献			
備考	授業内課題は、採点後に返却しフィードバックを行う		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として10年以上の臨床経験あり。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	●

科目ナンバリング
ST-3-SOC-15

科目名	言語聴覚学特別講義Ⅱ				単位認定者	櫻庭　ゆかり 渡邊　弘人　小松　有希 江畑　綾　平山　和美 野口　美雪　須賀川　芳夫 鈴木將太		評価の方法	試験(筆記)　100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	自由	３年	開講時期	通年	単位数	2　単位		
						授業時間数	60　時間		
				授業形態	講義	授業回数	30　回		

授業の概要	言語聴覚士が担当する言語・高次脳機能障害（失語症、高次脳機能障害、言語発達障害、発声発語の障害、聴覚障害）及び摂食嚥下障害について専門展開科目を基に総合的に復習するとともに、障害の評価や訓練についてとらえ直し、見落としがちなポイントや、理解するべき事柄を整理する。より良いリハビリテーションを提供し、対象児者の全人的復権に寄与するために知識面での補完を目指す。
到達目標	今まで学修した内容を振り返り、各科目の関係性の理解を深める。
学修者への期待等	専門展開科目を中心として言語聴覚療法を総合的に見直していく。３年間のまとめとして重要な内容となるため、積極的な受講を望む。

回	授業計画	準備学修	担当
1	言語聴覚障害学総論	STテキストP251～258、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	櫻庭ゆかり 鈴木將太
2	失語症　症状とメカニズム	STテキストP259～273、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	江畑綾 鈴木將太
3	失語症　評価と訓練	STテキストP259～273、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	江畑綾 鈴木將太
4	高次脳機能障害　症状とメカニズム	STテキストP275～290、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	江畑綾 鈴木將太
5	高次脳機能障害　評価と訓練	STテキストP275～290、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	江畑綾 鈴木將太
6	脳画像の見方（大脳の脳葉、基底核、視床、脳幹の各部位の同定、脳画像の種類）。	事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。	平山和美 鈴木將太
7	脳画像の見方（重要な脳回や構造の同定、病変の映り方）ご入力ください。	事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。	平山和美 鈴木將太
8	言語発達障害　病態、検査法（言語機能検査）	STテキストP291～306、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	小松有希 鈴木將太
9	言語発達障害　検査法（発達検査、知能検査）	STテキストP291～306、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	小松有希 鈴木將太
10	言語発達障害　訓練法(言語発達遅滞訓練)	STテキストP291～306、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	小松有希 鈴木將太
11	言語発達障害　訓練法(指導・支援)	STテキストP291～306、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	小松有希 鈴木將太
12	成人聴覚検査 適宜グループワークを行う	STテキストP319～328、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	渡邊弘人 鈴木將太
13	小児聴覚検査　適宜グループワークを行う	STテキストP328～331、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	渡邊弘人 鈴木將太
14	補聴器人工内耳　適宜グループワークを行う	STテキストP332～348、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	渡邊弘人 鈴木將太
15	視覚聴覚二重障害	STテキストP349～364、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	小松有希 鈴木將太

回	授業計画	準備学修	担当
16	機能性・器質性構音障害	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川芳夫 鈴木將太
17	吃音	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川芳夫 鈴木將太
18	発達障害（全般）	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川芳夫 鈴木將太
19	学習障害	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川芳夫 鈴木將太
20	ADHD	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川芳夫 鈴木將太
21	ASD	ASD：学生間の意見交流を重視し、知識の定着を図る。	須賀川芳夫 鈴木將太
22	音声障害	STテキストP365～376、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	櫻庭ゆかり 鈴木將太
23	運動障害性構音障害　タイプ分類と特徴	STテキストP386～391、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	櫻庭ゆかり 鈴木將太
24	運動障害性構音障害　タイプ分類と訓練法	STテキストP386～391、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	櫻庭ゆかり 鈴木將太
25	摂食嚥下障害　メカニズム	STテキストP404～418、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	江畑綾 鈴木將太
26	摂食嚥下障害　評価・訓練	STテキストP404～418、国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	江畑綾 鈴木將太
27	社会福祉関係法規①　社会福祉法	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	野口美雪 鈴木將太
28	社会福祉関係法規②　生活保護法、児童福祉法	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	野口美雪 鈴木將太
29	社会福祉関係法規③　老人福祉法　介護保険法	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	野口美雪 鈴木將太
30	社会福祉関係法規④　障害者総合支援法、精神保健福祉法	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	野口美雪 鈴木將太
教科書	『言語聴覚士国家試験　必須ポイント2025　ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験　必須ポイント2025　ST基礎科目』医歯薬出版 『2026年版　言語聴覚士国家試験過去３年間の問題と解説』大揚社 『言語聴覚士テキスト　第4版』　医歯薬出版　編著大森孝一		
参考文献			
備考	授業内課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。